

癒しの  
散歩道

「秋模様」

いつしか寄せ来る秋の色模様

我が眼を奪われし日暮れの里よ  
日和涼し気な稲穂が優しく揺れて

小寒い風に背なを丸くする里人よ  
今年も訪れる紅葉の錦待ちわびる



谷川 萬太郎



季節を惜しむ小鳥の悲しき口笛聞こゆ  
煙る田畑の向こうに浮かぶ晩鐘の輝き  
茜色の夕日に包まれた農夫のシルエット

咲き誇る秋桜が今日の日はやさらと  
手を振って微笑み返すまた明日会おうと

なつやま茶論 「半分の秋」

西柿：お早う、東さ・・・、えっ東さん  
どこへ行ったの。

東柿：ここですー。下の方です。

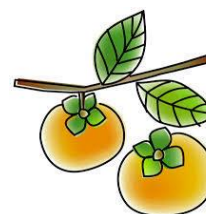
西柿：アレー、えらいこっちゃがな。幹が  
ボッキリ折れて、テントにもたれて  
しもて。

東柿：もう何もかもおしまいですわ。もう  
すぐ西さんと秋の風情の演出を楽し  
みにしてたのに。

西柿：えゝ本当にそうですよ、寂しいこと  
になりましたわ。私もすっごく揺れ  
ましたけど西側の竹林さんのお陰で  
助かりました。



竹本 雅昭



東柿：里山の人々には毎年食して頂き、お  
役に立つことがどんなに嬉しかった  
ことか。筆柿も青いまま落ちてしま  
ってかわいそう。熟柿た時などは、  
鳥がペッペッと忙しげに、小鳥さん  
達にはかわいい嘴で上品に食べて頂  
きました。

西柿：そうね色々ありましたね。これから  
私一人で東さんの分まで働けるか心  
配ですわ。

人々：鈴生りの朱に輝く筆柿に

心も昇る深き空

～終～

<台風21号>